

中国のデータセンター事情

中国市場に進出する日本企業では、進出にあたり業務システムやOAシステムをどう構築するかが課題となる。また構築後のシステムの運用やセキュリティの確保も各社共通の大きな課題である。本稿では、システムの運用に焦点をあて、中国のデータセンターの現状や問題点、新しい動向を紹介しながら、その選択や活用のポイントについて考察する。

中国に進出する日本企業の悩み

中国に進出している企業にとって、業務システムやOAシステムをどのように運用していくかということは、各社が共通して抱えている課題のひとつである。

自社でシステムを運用する場合、機器や設備、工事などかなりの初期投資が必要になる。しかし一般に、文化も法制度も異なる国での事業は将来が不透明なことが多く、大きなシステム投資はリスクが大きい。また、初期投資以外にも専門要員を雇用する必要があり、要員の採用や管理の負荷、要員の退職を防止するモチベーションの維持などが企業にとって頭痛の種となっている。

したがって、これから中国に進出しようとする企業ではシステム運用を外部のデータセンターに委託するのが現実的な選択であると思われる。

中国のデータセンターの問題点

データセンターの外部委託の場合、利用コストやサービスレベルの妥当性、セキュリティなどが問題になってくる。この点で、中国のデータセンターのなかには日本のレベルか

らみて不十分なところがあるので注意が必要である。

一般に中国のデータセンターは、必要な設備を備えた場所を貸し出すのみで、テープ交換や対面操作などのオペレーションを行わないところが多い。また、ウイルス感染や回線障害により電子メールやインターネットの利用ができず、事務作業が停滞したという話もよく耳にする。

設備についても、たとえば無停電電源装置（UPS）は最低限の容量しかなく、自家発電機もたないところがある。そういうセンターでは、近くのカソリンスタンドと契約して、停電時には発電車に来てもらったりしている。地震に対する対策は、地震が少ないためか、とくに行われていない。

障害に対する感度も日本に比べて低いようである。重大障害発生時に責任者や担当者に迅速に連絡できず、対応が遅れることもある。セキュリティに対する意識も高いとは言えない。生体認証を利用しているデータセンターは少なく、入退館時に携行品のチェックを行わないところもある。また、多くのデータセンターが、入館する見学者には名簿への記入や身分証明書の提示を求めるだけで、重要な

NRI北京
テクニカルエンジニア
李 振国 (Li, ZhenGuo)

専門は流通システムの基盤設計・構築



区画を見せたり紹介したりしている。

さらに、いわゆる“南北互通”問題がある。中国には中国ネットワーク通信集団公司（チャイナネットコム。以下、中国网通）と中国電信集団公司（チャイナテレコム。以下、中国電信）という2つの大きなキャリアがある。この両社は国有企業の旧中国電信が2002年に分割されたもので、旧中国電信のエリアのうち、中国网通が中国北部を、中国電信が南部をそれぞれ引き継ぐことになった。この2つのキャリアのどちらか一方から他方のネットワークにアクセスする場合、通信の反応が非常に遅くなると言われる。これが“南北互通”問題である。

このように、中国のデータセンターのなかにはさまざまな問題を指摘できるところがある一方、最近では外資企業との提携などによって問題の解決に取り組むデータセンターも現れてきている。したがって中国で活動する日本企業にとっては、いかにデータセンターを選ぶかが大切になる。

データセンター選びのポイント

システム運用の観点からみて、中国のデータセンターは大きく3種類に分けられる。

まず、一般的な中国仕様のデータセンターがあり、ある程度低コストで利用できるが、上述したような問題点をもつところもある。その場合は、サービスレベルについては妥協するか、さもなければ個別にコストを負担し

て改善措置を講じる必要がある。

次に、日本の通信キャリアと共同運営しているデータセンターがある。中国に進出した日本の通信キャリアが現地のデータセンターと連携し、日本でのノウハウを活かして高価格だが高品質なサービスを提供しているものである。最も重視されているセキュリティをはじめ、ほぼ日本仕様の運用サービスレベルを実現している。オペレーションも現地運用担当者をセンターに常駐させ、安定運用を実現している。また、データセンターが中国の大手キャリアと良好な関係を築くことでキャリアフリーが実現され、外資系企業が独自には解決できない“南北互通”問題も解決可能となる。

最後に、システムインテグレーターと連携しているデータセンターがあり、システム運用だけでなくシステム構築も行っている。システムの構築から運用まで一貫して提供できるので、顧客企業はシステム運用とデータセンターについてとくに意識する必要がない。

今後、中国に進出する外資系企業の増加によりデータセンターの競争も激しくなり、それによって品質は向上していくと考えられる。しかしいまのところ、多くのデータセンターのサービスレベルは国際的な水準には届いていない。そのため、企業は自社の業務やセキュリティなどの要件およびコストを十分に検討し、ニーズに合ったデータセンターを選定していかなければならない。